

やすらぎ

平成 22 年 7 月 1 日
〔第 135 号〕

発行 御所モラロジー事務所 発行責任者 吉田 実
〒639-2241 奈良県御所市茅原118-1 TEL/FAX 0745-64-3030 E.mail gose-mc@m5.kcn.ne.jp

平成22年 伝統の日感謝の集い



《柏会場》

今年も6月6日(日)は快晴になりました。千葉県柏市の公益財団法人モラロジー研究所の『平成22年伝統の日感謝の集い』に参加して来ました。全国各地をはじめ、台湾、韓国、ブラジル、ナイジェリアからの参列者を含め、約11,000名のモラロジアンが参集しました。

『感謝の集い』は、午前11時に開会。国歌斉唱、多くの恩人の恩恵と諸伝統に感謝し黙想。『この一年の歩み』のビデオ上映後、廣池幹堂理事長の挨拶がありました。

廣池理事長は、内閣総理大臣から認定を受け、平成22年4月1日からスタートした『公益財団法人モラロジー研究所』について「維持員の誠意に感謝するとともに、原点に立ち戻り偉大な先人の精神と事績を受け継いでほしい」。また、国の伝統である皇室について、「お守りしてきた先人たちに感謝し、次世代に伝えてい

く責任がある」。さらに義務と責任を果たし、「人類の安心、幸福、平和の実現」に向かって社会に貢献していくことなど話されました。

最後に麗澤中学、高等学校吹奏楽部による廣池千九郎讃歌 交声曲「稀人」の演奏と合唱、全員で「ひびけ世界の荒磯に」を合唱して、午後12時30分閉会となりました。

午後からは、中央広場で行われている



アトラクションの数々を見ながら、昼食のお弁当を美味しくいただきました。

食事を終えてから、9月の生涯学習セミナーに出向してくださる、木村好雄講師(B講師)と久野信夫講師(A講師)に挨拶するため、細川家成実行委員長と共に会いに行きました。

そうこうしている間に帰りの時間にな



り、午後3時研究所を後に帰路に着きました。

前日の6月5日(土)には、功労者慰霊式が霊堂で、精神伝統に学ぶ会が第2体育館で行われたようです。

今年も柏会場の『伝統の日感謝の集い』に参加するため、5日(土)に出発。そして東京の親戚でお世話になりました。すべてが“ありがたい”、“感謝”です。また来年も参加しようと思っています。

南 貞好

《瑞浪会場》

6月13日(日)会場である瑞浪は、梅雨の合間の時折日差しも出る天気恵まれた日となりました。

私と妻は午前9時半頃到着し、まず麗澤館に挨拶に行き、時間までセンター内の展示を見たり、物産展に立ち寄り味見をしたりしながら開会式を待ちました。10時30分に時間通り開会され、国

歌斉唱に始まり先人先輩へ黙祷し、理事長の挨拶が始まりました。

理事長は日本を作り上げた伝統の恩恵に感謝しつつ、現在の日本の行く末や政情を憂い、より良い日本にするためにはモラロジーの教えがますます必要になってきたと力説され、世界に誇れる日本人として、またなくてはならないモラロジアンとして社会に貢献していくことが大切であると叱咤激励されました。最後には全員で「ひびけ世界のあら磯に」を大合唱して閉会しました。

午後からは中学生や高校生の体験発表があり、井出元先生の講話が予定されておりましたが、



私たちは午前の部で瑞浪を後にしました。

富士俊隆

公益財団法人としてのセミナー 佛種縁起 是故説一乘

生涯学習セミナー開催打ち合わせ会が5月30日(日)大阪講堂で行なわれ、細川家成セミナー実行委員長他5名が参加した。少し早めに大阪講堂に到着、車を駐車、桃谷の商店街を散策して食事をとる。



午後1時前に会場に入ると、正面の看板が目につく。公益法人としての新しい試みで、セミナー会場の看板見本にもなるように考えられ製作されていると酒井副部長の話し。

参加者は20事務所、90名。先にポスターやリーフレットなどを受け取り、車

に積み込む。事前にとられているアンケートによると、芦屋事務所の6月27日を最初に11月の岸和田事務所まで各事務所のセミナーが続き、それぞれ新人の受講推進に力をいれている。

先ず前田道弘部長は、「公益財団法人としてのリセットをして頂きたい。良い物は良い物として残し、改善すべきは改善する。新しい取り組み、試行錯誤で望んで欲しい」として、意識の改革と資質の向上を訴えた。近畿ブロックとして6項目の申し合わせ事項を話され、その中で「維持員の家族を重点にお誘いをする」「セミナーの終了はセンター講座の同行受講をもって終了とする」「セミナーのスタッフに新しい方を登用する」など是非実行すべきと感じた。

また、酒井副部長がセミナー開催の留意点を説明、本部のホームページを確認の上公益財団法人化後の対応に注意し、

分らないこと、疑問に思ったことなど何事もすぐに相談するよう話された。その後、DVD「かけがえのない人生どう生きますか」を視聴し、忠岡事務所前川知恵子さんの事例発表、最後に都島事務所山上克さんの「開催に際しての心構え」を聞いた。

法華経のなかの佛種縁起 是故説一乗（佛種は縁より起こる、是の故に一乗を説く）から話をされ、大変難しく到底理解に及ばなかったが、何か勇気が湧いてきた、また松浦香先輩の「博士の弟子となるには」の話を紹介された。

なるほど、セミナー開催にあたっては、この開催打ち合わせ会に、代表的な役割

伊勢神宮祈願参拝

今年もセミナーの開催祈願に伊勢神宮に参拝します。出来るだけ多くの方、初めての方、一緒にお参りしましょう。

日時：7月31日（土）
問合せ：細川家成実行委員長まで

の少人数の参加でなく、出来るだけ多くの者、出来れば全員が聴きに来る位の意気込みが無ければ、真の借財返済、人心開発救済のセミナー開催はおぼつかないと思う。

広報 米田徳七郎

ツアーガイド（7） 詩人

オープン4月から5月に入る。平城宮跡会場に5月3日は69,000人を記録した日も、きびしい緊張感の渦中で汗だくとなって右往左往させられていた。

昨年の8月22日からガイド養成に携わってきた幾人かの協会役員は、私達をよく面倒みてくれながらも、自然の草原に羊飼いが羊たちを放ち、その羊群を協会の詳細なルールで油断なく縛りつけながらも、互いが信頼を寄せあっていた。

その協会側に身を寄せて、見え隠れしながら一人の毛色を異にした60歳台の存在を、何となく気をつけて見ていた。

彼は衆人の前で話をする役割の人物で



なく、しかし前歴の重みを感じられ、経験者としての資格を持っているようであった。彼は

チョビ鬚を蓄え、メガネをかけていた。そしてそれとなく顔全体の輪郭に特別な影響を与えていた。きっと彼の意思によって或る印象的な創作により顔立ちを生かしているのだろうと思われた。彼は専門ドクターとして、アドバイザーとして

この場にいるのだろうと勝手に解釈した。

その日私は、朝からメインガイドとして1時間半、昼からサポートガイドとして1時間半の勤めを終えて、レポート等の後始末を机の上で整えていた。それから自然と平生の自由の身に帰ろうとしていた時、例の彼がすぐ隣に座っていることに気がついた。

一言、二言と挨拶がわりに言葉をかわしているうち、不思議と興味湧く話へと引き込まれていった。彼はなんと忘れ得ぬ人物群の一人「坊ちゃん」こと森口武男の娘婿であることを告げてくれていた。そして或る時期、彼らの詩誌「地虫」の編集発行人であったとも、順々と話してくれた。

1日とんで5月5日の朝、騒々しい会場の事務所で、彼に『やすらぎ』に投稿した例の森口、大上先生の記事が載せられた「エッセイ」のコピー文章を手渡した。その日もゴールデンウィークの最終日で混雑していた。ツアーガイドから戻ってくると、彼は分厚いコピー書類を持って待っていてくれていた。その表紙には、吉本隆明の論文集であることを示されていた。

吉本隆明は、一般に知るべき人物であるが、枯葉のように脳髓の奥で眠ってし

まっている存在でもあった。

青年時代彼の詩も、時に難しい論文も読んだことのある学者で、そのコピーの文章の中に「西村博美論」のページがあった。その文章の存在で、彼の詩文壇に於ける評価を知らねばならないのだろうと考えて見た。

奈良には国初からの長い歴史と豊かな自然、そして人々の営みがあり、奈良固有の風土が作り出して来た。明治以降の近代、現代の文学者たちがこのような風土を愛し、慕い、求めて奈良を訪れ様々な文学の花を咲かせて来た。

その中であって、昭和初期に民俗学者折口信夫がいた。彼は歌人釈超空として、長らく作歌歴を持ち、奈良を愛した。だ

から彼を中心とする仲間を作り出し、母校國學院大學卒業生として同窓の文学者とも交流しその縁を繋いだ。彼の作品中、中将姫をモデルとした『死者の書』がある。

だから大上敬義たち「地虫」の人たちはその仲間たちである。

5月12日、遺族会「19桜会」15名が午後1時に近鉄奈良駅に集合することになっていた。幹事として時間たっぷりに東向き通りへとやって来て、「はぎの家」でめしを喰った。尚時間があったので北通りの「大学堂」へと出かけて来て、小説家の主人に古本『手袋を脱ぐ』西村博美著をさがし出してもらった。

トーマス

運営委員会報告

「昨日は、夏至でした。また小惑星探査機「はやぶさ」が先日、7年ぶり帰還しました。行方不明になった時、科学の最先端の方でも神に「祈り」をすると奇跡も起こる。祈りは大切である」と吉田代表世話人は挨拶し、運営委員会は始まりました。6月22日(火)の出席者は委員17名中10名と寂しい。

報告事項

1. 伝統の日感謝の集い6月5日(土)～6日(日)の柏会場へ6名参加、13日(日)の中日本会場へ5名参加。
2. 第14回生涯学習セミナー準備状況について
 - ・ テーマは、「心がつくる人生」、募集は新人200名目標。
 - ・ 7月8日(木) セミナー事前打ち合わせを開催します。スタッフは全員参加。講師に川上暢造氏(吉野)にお越しいただく予定。
 - ・ 7月31日(土) 祈願参拝 伊勢神宮行。
 - ・ 8月2日(月) 事務所開き 前田道弘氏(近畿ブロック部長)にお越しいただく。
 - ・ 講師の宿舎は、木村好雄講師が富士俊隆さん宅。久野信夫講師が米田徳七郎さん宅に決定。
 - ・ セミナー終了後の生涯学習講演会は、10月20日(水)と11月18日(木)の2回。
 - ・ 受講者と同行で中日本センター講座受講を予定。(12月9日(木)～12日(日):3泊4日)

3.各クラブ・他

教育者研究会

開催日：平成22年8月22日(日)、
会場：奈良県社会教育センター、
講師：太多和聡宏氏(開星中学校長 モロロジー教育者講師)・
梶田叡一氏(兵庫教育大学長)。学校の先生方にお薦めをよろしくお願いします。

女性クラブ

近畿ブロック女性クラブ代表者研修会が、6月19日(土)大阪講堂で開催され、富士秀子さんと山原百合子さん参加。女性のための生涯学習セミナー開催を提案される。また、6月24日(木)女性の集いを開催予定。小房観音(橿原市)と飛鳥万葉文化館行。31名の参加予定

青年クラブ

6月13日(日) 伝統の日感謝の集い中日本会場へ奈良県青年協議会から2名参加。

審議事項

1. 次期代表世話人について、推薦委員長は細川家成さんに決定済み、9月中旬に他の推薦委員を選出する。
2. 研究費(報恩)の「セキュリティー」について、郵便局の振替口座開設を急ぐ。振込手数料は事務所で負担する(料金加入者負担)。報恩箱を急ぎ整備し、毎月4日、5日、12日に使用する。